

奥能登原木しいたけ 「のとてまり」・「のと115」だより

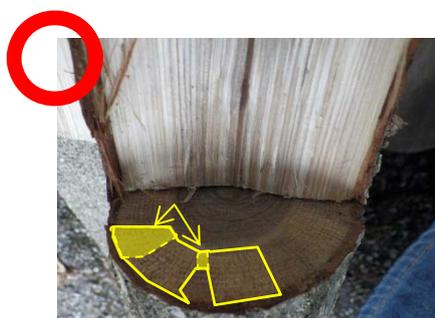
令和3年度第2号
(通巻23号)
令和3年7月13日発行

＜発行者＞ 奥能登原木しいたけ活性化協議会、石川県農林総合研究センター

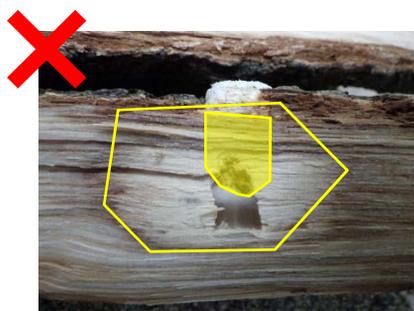
夏に向けたほだ木管理について

奥能登地区では、今年の5～6月は昨年と比べかなり降水量が多く、気温も平年より高めとなりました。ほだ木の水分が抜けにくく、また高温多湿になりやすいため害菌の発生が心配されるところです。ほだ木、ほだ場の状態を確認し、良いほだ木をつくりましょう。

◇ほだ木の状態を確認しましょう



種菌の列と列の間にもシイタケ菌糸が伸びている
(写真は6月初め)



種菌に活力はあるが、周囲に伸びていない
(写真は6月初め)



種菌から近いところだけにシイタケ菌が伸びていない
(写真は6月初め)

シイタケ菌の伸びの良し悪しは、
・ ほだ木内部の水分が抜けているか
・ 直射日光が遮られているかが重要なポイントです。



先月発行の内容を参考にして、ほだ木の組み方、ほだ場の管理を行ってください

- ・ 風通しが悪いと水分が抜けにくくなります。伏せ込みしたときは風通しがよくても、下草が繁茂していると、風通しが悪くなります。
- ・ 水はけが悪く、降雨後水たまりができるような場所はトリコデルマなどが発生する危険があります。
- ・ 直射日光があたると、ほだ木が高温になりシイタケ菌が死んでしまいます。

今回のポイント

- ・ シイタケ菌は30℃を超えると弱って死んでしまいます。通風、遮光を適切に行って良いほだ木をつくりましょう
- ・ 夏場は散水する必要はありません。中途半端に散水すると高温多湿となり、トリコデルマなどの害菌が発生します。心配な場合はご相談ください。